

【小学校第6学年の実践】

1 主題名

努力の大切さ【A 希望と勇気、努力と強い意思】

2 教材

アイヌ文化を継承した少女 知里 幸恵（北海道版道徳教材（小学校高学年用））

3 主題設定の理由【指導観】

(1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

希望と勇気、努力と強い意思とは、自分の目標をもって、勤勉に、くじけず努力し、自分を向上させることである。児童が一人の人間として自立し、よりよく生きていくためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲をもつことが大切である。そのためには、自分の目標をもってその達成に向けて粘り強く努力するとともに、やるべきことはしっかりとやり抜く忍耐力を養うことが求められる。

こうしたことは、ただ漫然と努力するのではなく、自分に適した目標を設定し、見通しをもってよりよい自己を実現しようとする向上心と結び付いてこそ、前向きな自己の生き方が自覚できるようになる。そのためにも、児童がより高い目標を立てたり、その実現を目指して自分としての夢や希望を掲げたりすることが大切である。自分の目標に向かって、勇気をもって困難や失敗を乗り越え、努力することの大切さを考えさせる指導が大切である。

第6学年での指導に当たっては、この段階の児童それぞれが追い求めるとされる高い理想や夢と、思うように結果が出ない現実との違いについて多面的・多角的に考えさせ、苦しくても、くじけずに努力して物事をやり抜き、失敗を重ねながら夢を実現した人の生き方に触れ、希望や目標をもち、困難を乗り越える人間の強さについて考えることを通して、児童の中により積極的で前向きな態度を育てていきたい。

(2) 児童の実態【児童観】

自分の目標をもってその達成に向けて粘り強く努力するとともに、やるべきことはしっかりとやり抜く態度を育てるために、道徳科以外では、次のような指導を行っている。

①社会科「歴史学習」

伊能忠敬など、困難に直面しても諦めることなく努力を続けた偉人について取り上げ、調べ学習などを通し、行動力やくじけずに努力することの大切さについて考える指導を行っている。児童は、先人の生き方に触れ、あきらめることなく挑戦することの大切さについて気付くことができるようになってきたことから、道徳科で、読み物教材を活用することなどを通して、自分との関わりで一層考えを深める必要がある。

②体育科「体づくり運動～なわとび～」

年間を通した体力づくりの取組の一環として、前期は「短縄記録会」、後期は「長縄記録会」の取組を通して、記録の更新を目指し、記録が伸び悩んだときも、励まし合い、力を合わせて取り組み続ける大切さについて考える指導を行っている。児童は、目標に向かってあきらめずに取り組むことの大切さを実感することができるようになってきたことから、困難を乗り越える人間の強さについては、道徳科で読み物教材などを活用して、さらにじっくりと考えさせる指導が必要である。

③家庭や地域との連携「家庭学習」

家庭学習として取り組んでいる「日記を書く活動」を通して、継続して取り組むことや、やり抜くことの大切さについて考える指導を行っている。教師が、児童の日記を欠かさず取り組んでいる様子についてノートに肯定的にコメントすることで、児童は、意欲をもち、前向きに取り組むことができるようになってきたことから、道徳科で粘り強く努力することについて話し合うなど、多様な考えに触れながら考えを深めさせる必要がある。

(3) 教材について【教材観】

苦しくてもくじけずに努力して物事をやり抜く大切さについて、多面的・多角的に考えさせるために、知里幸恵が、アイヌ民族の伝統や文化を守ろうと決断するまでの過程やアイヌの人たちの文化を必死に継承しようとする姿を中心に話し合い、困難を乗り越える人間の強さについて、自分との関わりの中で道徳的価値の自覚を深めさせていく。

本時においては、中心的な発問とそれを効果的にするための基本発問を次のとおり設定する。

1 「◎中心的な発問」の場面

→アイヌ民族の伝統や文化を守ろうと決断するまでの過程やアイヌ民族の文化を必死で継承しようとする姿から道徳的価値について多面的・多角的に考えさせる。

◆意 図：差別や病気などの困難にもめげず、アイヌ神謡集を完成させることに人生をかけた知里幸恵の気持ちについて考えさせ、価値理解を深めたい。その際、児童に問い返すことにより、多面的・多角的に考えを深めさせ、他者理解を深めさせたい。

●幸恵の思い：祖先が残してくれたユーカラを後世に伝えることが自らの命を失っても成し遂げる自分の使命だと考え、自分にできることは何でもしたいという思い。

2 「○基本発問」の場面

→生活や健康、差別等、幸恵を取り巻く困難な状況からくじけず努力することについて考えさせる。

◆意 図：アイヌ民族というだけで続いた苦しい生活や不当な差別、健康上の不安等について考えることにより、困難な状況の中で生活する幸恵の気持ちについて考えさせ、人間理解を深めさせたい。

●幸恵の思い：アイヌ民族というだけで、恥ずかしく肩身の狭い思い。

→金田一京助との出会いから幸恵の希望や強い思いについて考えさせる。

◆意 図：金田一がアイヌ文化を認め、尊重したことにより、幸恵がアイヌ文化の継承への強い思いをもち、生涯をかけて取り組みたいと思うようになった気持ちについて考え、価値理解を深めさせたい。

●幸恵の思い：アイヌ文化はとても素晴らしいものだと気づき、祖先が残してくれたアイヌ文化の研究に生涯を捧げたい。

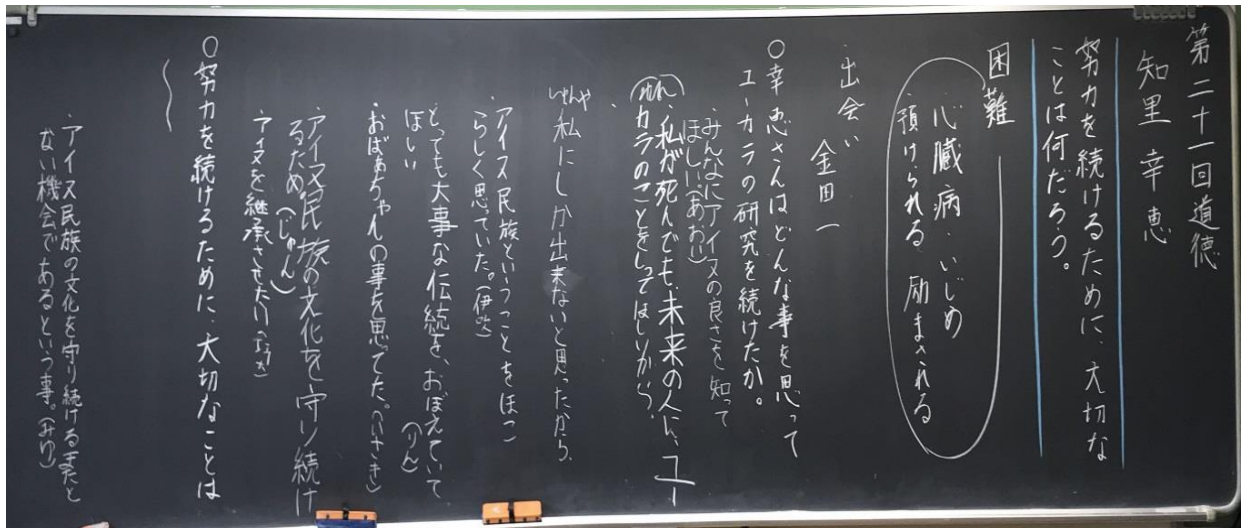
4 ねらい

知里幸恵の生き方に触れることを通して、苦しくてもくじけずに努力して物事をやり抜くことの大切さに気づき、困難があっても、目標の達成に向けて努力しようとする心情を育てる。

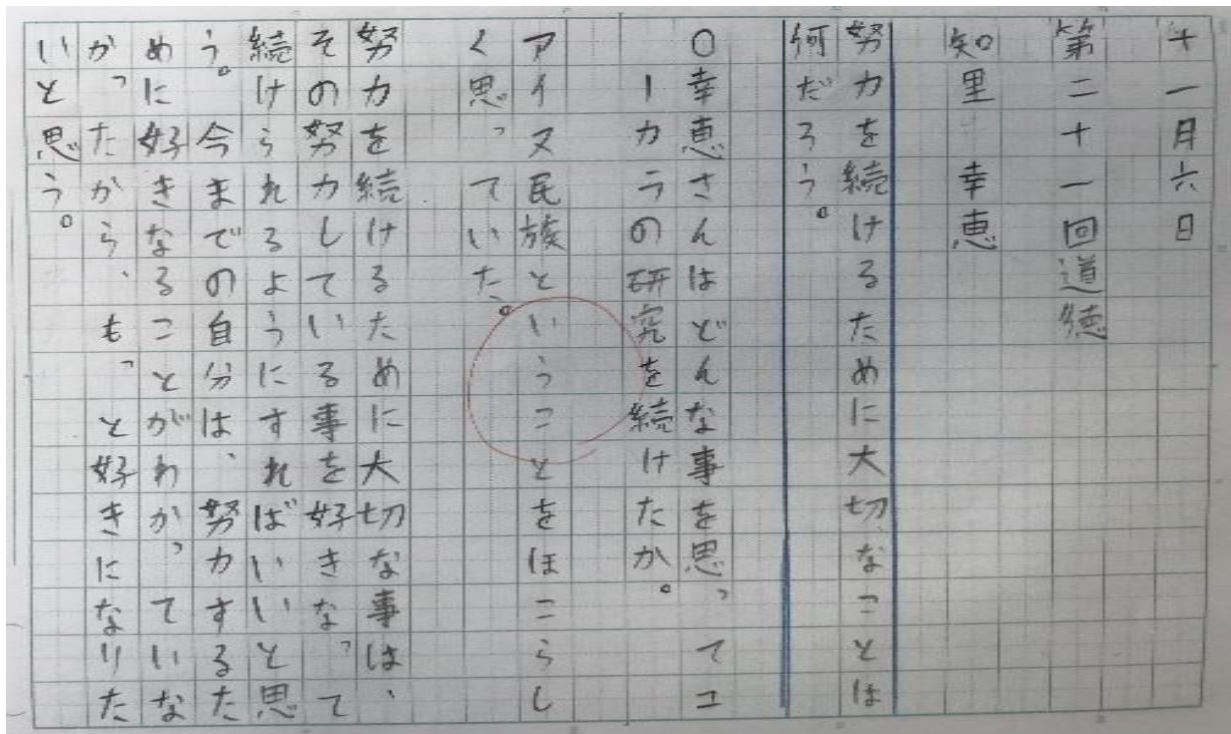
5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの経験を振り返る。 ○ 今までの生活の中で、努力したけれど途中で挫折したり、諦めたりした経験はありますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・毎日家庭学習をしようとしたけれど、すぐにやめてしまった。 ・毎日、体力づくりのために運動をしようと思ったけれど、続かなかった。 ・少年団の試合でなかなか勝てず、やめてしまいたいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・努力に関わって、どのような経験をしてきたかを振り返ることにより、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。 	【工夫①】 <ul style="list-style-type: none"> ・読み物教材の内容を捉えることに終始することのないよう道徳的価値への方向付けを図り、キーワードを示して道徳的価値に関わる思考の道筋をつける。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材「アイヌ文化を継承した少女」を読み、話し合う。 ○ 幸恵の人生には、どのような困難がありましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ここはあんたの来るところじゃないわよ。」と言われ、同級生に受け入れられなかった。 ・苦しい生活が続いた。 ・心臓の病をかかえていた。 ◎ 幸恵は、どのような思いで、生涯をかけてユーカラ研究を続けたのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしいアイヌ文化を残したいという気持ち。 ・ユーカラを広めたいという気持ち。 ・自分の使命だという考え。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えの理由を問い返すことにより、児童の多面的・多角的な考え方を引き出し、考えを広げたり深められるようにする。 ・差別や病気などの困難にくじけず、アイヌ神謡集を完成させることに人生をかけた知里幸恵の立場に共感させ、気持ちを話し合うことにより、努力についての価値理解を深められるようにする。 	【工夫②】 <ul style="list-style-type: none"> ・主人公の立場に共感させることで自我関与を促す。 ・困難に直面した時の心情を考え、交流させることにより、人間理解を促す。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 自己を見つめる。 ○ 努力を続けてうれしく思ったことや大切だと思ったことはありますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・苦勞したけど目標を達成したときのうれしさは大きかった。 ・今まではあきらめてしまうこともあったけど、頑張ろうと思った。 ・自分自身に負けない強い心をもつことが大切だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活や生き方を振り返り、自己理解につなげる。 ■ 困難を乗り越え、努力を続ける大切さについて、自分との関わりで考えを深めることができたか。 	【工夫③】 <ul style="list-style-type: none"> ・児童の考えを関連する道徳的価値ごとに分類して板書することにより、ねらいとする道徳的価値について多面的・多角的に考えを深めることができるようにする。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師の説話を聞く。 ※立場が変わったり、困難な状況であったりしても、目標に向かって努力し続ける難しさやよさについて話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の目標に向けた努力をしていこうとする実践意欲が育まれるようにする。 	【工夫④】 <ul style="list-style-type: none"> ・自分との関わりでじっくり考えさせるために、ノートに書く活動や交流する活動の十分に確保し、自己理解を促す。
			【工夫⑤】 <ul style="list-style-type: none"> ・教師が自ら説話を行うことにより、児童の心情に訴え、ねらいとする道徳的価値を児童が一層主体的に捉えることができるようにする。

6 板書



7 ノート・ワークシート



【授業実践を振り返って】

自分の目標をもってその達成に向けて粘り強く努力するよさについて、自分との関わりで多面的・多角的に考えることができるよう、中心的な発問を吟味し、「幸恵は、どのような思いで、生涯をかけてユーカラ研究を続けたのでしょうか。」と問いかけました。

児童は、苦しくてもくじけずに努力して物事をやり抜くよさについて話し合う中で、

- ・素晴らしいアイヌ文化を残したいと思っていた（伝統と文化の尊重）
- ・アイヌ文化に誇りをもっていた（国や郷土を愛する心）
- ・ユーカラの研究をすることは自分の使命だと思っていた（真理の探究）

などの発言が見られ、「伝統と文化の尊重」や「真理の探究」などの関連する道徳的価値と関連を図りながら。自分との関わりで多面的・多角的に捉えながら「希望と勇気、努力と強い意志」についての価値理解を深めることができました。